

2019 年度 事業報告書

総務委員会 委員長
五十嵐 佑一

1. 事業内容

- (1) 会議スタイル・組織運営マニュアルの研究
- (2) 理事会・総会設営
- (3) HP 運営
- (4) 会員拡大
- (5) 1 月新年例会
- (6) 1 2 月卒業例会
- (7) 中間監査・期末監査設営

2. 所感

2019 年度、総務委員会は LOM の基盤として委員会メンバー一人ひとりが組織運営のあり方を追求し、会議所としての本質を伝播できる人財となるべく活動して参りました。

まずは各委員会の新任スタッフが委員会運営のあり方を学び、各委員会運営を円滑に行えるように正副幹事セミナーを設営、新任の理事が理事会の在り方を学ぶべく理事セミナーの設営と、会議所としての組織運営を追求し 2019 年度の活動の基盤を構築できたと考えます。

そして、候補者段階から計 25 回の理事会と 3 回の総会の設営では会議に出席するメンバーが活発に議論を展開できるように滞りなく設営を行い、活発な議論を展開できる場の創出に努めました。また、中間監査・期末監査の設営では事前に各委員会に準備を促しスムーズに監査を行えるように準備をしましたが、各委員会が円滑に監査を受けられる配慮が足りずに、委員会によっては長い待ち時間が出来てしまう状況もあり、設営の進行面で課題を残す結果となりました。

HP 運営については、制作サイド、委員会メンバー、他委員会メンバーで徹底して共有しなければならない情報を伝達、共有する事が出来ず、ブログ記事の更新の遅延、適切なタイミングでの広報活動を行う事ができませんでした。広報としては年末に当別会員とメンバー内外に長岡 J C のファンを増やすべく機関誌「WE BELIEVE NAGAOKA」を発行出来ましたが、まだまだ面白く、意義のあるもの出来る可能性があるものだと感じました。

また、会員拡大では委員会メンバーを拡大運動に巻き込むことが出来ず、動き出しも遅くなってしまったこともあり、当初掲げていた目標を達成することが出来ませんでした。LOM 全体で拡大運動に力を入れ 40 名という数字を達成出来た年ではありましたが、総務委員会では拡大に対する意識がまだまだ低く、委員会メンバーを巻き込んで全員で拡大をするということに大きな課題を残す結果となってしまいました。

新年例会では上村英輔理事長の新体制の下で、長岡 J C メンバーが足並みを揃えて年初の一步を踏み出すことを目的に各委員会に、例会の意義を伝え目標である 80 % の出席率を超えることが出来ましたが、設営面での細かいミスなどがあり、当たり前のことを当たり前に行うには入念な事前準備が必要であるということを痛感いたしました。そして、12 月卒業例会では卒業生を厳粛な雰囲気の中送り出すべく、シナリオを精査し事前に準備を重ねて望んだのですが、各委員

会へ例会の意義を伝え参加を促すPRが足りず、出席率において70%という結果になってしまい次年度以降に課題を残す形となりました。

一年間総務委員会の委員長として、メンバーがLOMの基盤となるべく活動してまいりましたが、当たり前のことは当たり前にやることの難しさを実感しまだまだやれることはあったと悔いがありますが、3回の総会、2回の監査と25会の理事会を滞りなく設営出来たことに誇りを感じております。

最後に、このような機会を与えて下さいました上村理事長をはじめ委員会メンバー、並びにLOMスタッフの皆様、長岡青年会議所メンバーの皆様に、心より感謝申し上げ、総務委員会の所感とさせていただきます。